

第1回 下北地区統合校検討委員会
【会議録】

令和5年6月29日（木）

むつ市企画政策部企画調整課

1. 日 時 令和5年6月29日(木) 14:30～16:07

2. 場 所 むつ市役所 大会議室A

3. 出席者 【委員】

高橋 興	青森中央学院大学	特任教授
阿部 謙一	むつ市教育委員会	教育長
越後林 達巳	大畑町商工会	会長
千葉 栄美	大湊高等学校	校長
山田 誠	むつ工業高等学校	校長
岩渕 崇	むつ市連合PTA	会長
堺 祐介	大間中学校PTA	会長
畑中 貢	東通中学校PTA	会長
古川 誠	風間浦中学校PTA	会長
伊藤 輝貴	佐井中学校PTA	会長
種澤 博之	大湊高等学校PTA	会長
濱田 大臣	むつ工業高等学校PTA	会長
佐々木 一浩	大湊高等学校同窓会	会長
木村 努	むつ工業高等学校	同窓会 会長
奥川 清次郎	大湊高等学校	後援会 理事長
吉田 成人	むつ工業高等学校	後援会 理事長
欠席：内田 大輔	むつ商工会議所	会頭
半田 義秋	むつ市川内町商工会	会長

【オブザーバー】

○青森県教育委員会

外崎 学	高等学校教育改革推進室	室長
森 三奈子	高等学校教育改革推進室	室長代理
渡部 裕介	高等学校教育改革推進室	主事
木村 秀樹	学校施設課	課長
加藤 寛隆	学校施設課	課長代理
花田 朋亨	学校施設課	総括主幹
宿野部 大	学校施設課	主事

○下北郡内町村

菊池 雄三	大間町教育委員会	教育課長
松木 敏夫	東通村教育委員会	教育次長
村上 純一	風間浦村教育委員会	教育長
山本 尚樹	佐井村教育委員会	生涯学習課長

【むつ市】

山本 知也 むつ市長

【事務局】

角本 力	企画政策部	部長
福山 洋司	企画政策部	政策推進監
品田 加奈子	企画政策部企画調整課	主幹
小林 晋	企画政策部企画調整課	主任主査
西村 星南	企画政策部企画調整課	主事

1. 開会

2. 辞令交付

《山本市長より、委員を代表して高橋委員へ辞令交付》

3. 市長挨拶

(山本市長)

皆様お疲れ様です。

第1回下北地区統合校検討委員会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様、オブザーバーとして御出席いただいた皆様、本日は、業務ご多忙の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、大湊高校・むつ工業高校の統合に関する青森県立高等学校教育改革につきましては、市といたしましても重要な課題として、今まで取り組んできたところでございます。

本委員会の設置は、令和9年度の開校に向けて、地域の誰もが納得し応援できる学校、子どもたちが進学したいと思える学校、地域の将来を担う人材を育む学校を目指すための重要なプロセスとなると考えております。

これから高校に進学を予定している子ども達を持つ御家庭にとりましても、今後どのような学校となるのか、大変関心のあることだと思いますので、本委員会において、しっかり議論を重ねていただくことを期待しております。

また、本日新たに青森県知事となりました宮下前市長は、高校再編について「子どもの夢をしっかり応援するような高校改革、再編に取り組む」と表明しております。

市といたしましては、これからの県の動きを注視し、高校再編について、子どもたちの未来のため最善を尽くしてまいります。

最後になりますが、お集まりいただいた皆様方におかれましては、本委員会設置の趣旨をお汲み取りいただき、積極的な御意見を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後とも一層の御理解・御協力を賜りますことを重ねてお願いいたしまして、私の挨拶といたします。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

4. 委員・オブザーバー・事務局紹介

《出席委員、欠席委員、オブザーバー、事務局の紹介》

5. 座長選任

《互選により、座長に高橋委員を選出》

(座長あいさつ)

ただいま選任いただきました、青森中央学院大学の高橋でございます。

今日お集まりの皆様方、県教委の方を除けば、ほとんど地元の方で、私だけが市外の委員になりますが、実は下北の高校再編に関する地区の協議会が3回行われたと思いますが、その全編を傍聴し、地域の皆様方のその時に表明された意見も録音し後で聞いたり、つぶさに検討したりしております。そういったこともあり、この委員に任命されたと思っています。

私は若い頃に大間高校の校長を2年やらせていただき、下北地区には大変強い思いを持ち、今でも年に何回かは大間や佐井のあたりをドライブしたり、宿泊して楽しくお酒を飲んだりしている地域でございます。

そういった思いを持って、このいただいたお役目を一生懸命果たしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

6. 議事

(1) 下北地区統合校検討委員会について(事務局)

(福山政策推進監)

事務局からは、本委員会の設立目的と、今後の流れについて御説明いたします。

「下北地区統合校検討委員会」ですが、設置の目的といたしましては、要綱にもございますとおり、令和9年度に新設される下北地区統合校について、令和7年度に県が設置を予定しております「開設準備委員会」に対し、教育内容や校舎のあり方について下北地域の意見を届けることを目的としております。

本委員会の今後の流れにつきましては、資料1を御覧ください。

本委員会は、新知事の元での県の動きを見ながら、今年度と来年度で、計6回程度の開催を予定しております。

最終的に、本委員会において議論されたことを要望事項として取りまとめた上、意見書を作成し、令和7年度に設置される「開設準備委員会」へ提出しこの場での議論を繋げていければと思っております。

続きまして、本日の流れについて御説明いたします。

このあと、議事の(2)「青森県教育委員会による概要説明」ということで、青森県教育委員会から下北地区統合校の概要について御説明いただき、説明に対する質疑応答の場を設けさせていただきます。併せまして、基本計画の概要についても御説明していただくこととなっております。

次に、議事の(3)「今後の検討事項について各委員からの発言」ということで、課題の洗い出しとして、今後議論していくべき課題について、委員の皆様から御発言いただくこととなっております。本日は意見を述べていただいて、今日は議論の場ではなく、それぞれ思っている課題を述べていただいて、次回以降の検討に繋げていければと思っております。

以上で、事務局の説明を終わります。

(高橋座長)

委員の皆様、ただいまの事務局の説明に何かご質問ございますか。

～発言なし～

それでは、先に進めさせていただきます。

最初に、青森県教育委員会からこの今進行中の取り組みの概要についてご説明いただきます。

(2) 青森県教育委員会による概要説明

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

まず先に、高校改革室のほうから、第2期実施計画の下北地区統合校の概要ということで改めて御説明いたします。本日、お配りした資料2枚物のホチキス止めです。それについて御説明いたします。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 渡部主事)

下北地区統合校の開設に向けた対応についてのペーパーを御覧ください。

(1) 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画について、策定の主旨です。社会の急速な変化や高校教育を巡る環境の変化、中学校卒業予定者数の減少等を踏まえ、将来、高校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境づくりに向け、令和5年度から5年間の具体的な学科改編や学校規模・配置等を示す「第2期実施計画」を令和3年11月に策定をいたしました。

(2) 下北地区の学校規模・配置についてです。生徒数が減少する中であっても、中学生の進路希望等に応じた学校・学科の選択肢を確保するとともに、生徒が集団の中で様々な個性や多様な価値観に触れ、協働することにより、確かな学力、逞しい心、学校から社会への円滑な移行に必要な力等を身に付けることができるよう、各地区の学校規模・配置を決定したところであり、下北地区については下記のとおりとなっております。

それでは2枚目をご覧ください。

こちらが下北地区統合校の概要となっております。統合対象校は、大湊高校総合学科4学級、むつ工業高校工業科3学級、機械、電気、設備・エネルギーとなっております。統合年度は令和9年度で、設置場所はむつ工業高校の校地で、校舎を新たに整備する予定としております。

学科構成です。総合学科3学級、工業科2学級、機械、電気・エネルギーとなっております。なお、総合学科の系列については、大湊高校の系列、人文科学、自然科学、健康福祉、情報ビジネスを基本としつつ、開設準備委員会の意見を踏まえながら検討してまいります。

統合校の方向性です。開設準備委員会において、次のような「統合校が目指す姿」及び「統合校における教育活動の例」を踏まえ、統合校の名称のほか、具体的な取組等について協議してまいります。

まず、統合校が目指す姿です。総合学科と工業科の併置校として、生徒の興味・関心等に応じた多様な学習により、幅広い知識や視野を身に付けさせ、生徒一人一人の進路希望を実現する高校。

生徒のニーズや地域の特性を踏まえた系列を設置し、生徒の個性や能力を伸長させ、豊かな社会の実現に寄与する高校。

ものづくりに関する実践的な学習を通して専門的な知識・技術を身に付けさせ、地域産業の発展に貢献する高校を目指しております。

統合校における教育活動の例です。

学科や系列の枠を越えた探求活動や科目履修等、総合学科と工業科の連携による教育活動の推進。

地域の社会人や有識者の積極的な活用や多様な選択科目の開設等、生徒の進路意識を高める教育活動の推進。

エネルギーや介護福祉等に関する科目の開設等、地域の特性や産業構造を考慮した教育活動の推進。

熟練技能者による技術指導や大学・企業との連携による最先端技術の学習、高度な職業資格の取得等、高い専門性を身に付けさせる教育活動の推進を教育活動の例として挙げております。

資料については、ご説明は以上となります。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

概要の説明は以上ですが、少しでも口頭で補足をさせていただきたいと思っております。

昨年度大湊高校、むつ工業高校のPTA、後援会、同窓会などの学校関係者の方々や、商工会、青年会議所の方々などと下北地区統合校の開設に向けて情報交換をさせていただきました。その際、いろいろなご意見やご発言をいただきました。少し、種類ごとに分けてご紹介させていただきます。

まず、教育内容や資格に関する事で統合校は $1 + 1 = 2$ ではなく、3にも4にもなるような学校にしてほしい。

幅広く地域と統合校に係る議論を行い長きに渡って愛される学校になってほしい。

資格について、統合校における第3種電気主任技術者認定校は維持してほしい。

地域との関わりについて、統合校はたくさん挑戦し、成功と失敗をたくさん経験できる高校にしてほしい。

地域との関わりを増やしアウトプットの機会を増やしてほしい。

情報交換に関する事について、オープンな場で統合校について説明し、意見を聞く場を設けてほしい。

その他、各種意見をいただいたことについて、まずひとつ、校名について、「大湊」の名

前を校名に残してほしい。

開設準備委員会の委員構成について、学校関係者だけではなく地域も入れてほしい、その上で地域の要望を広く吸い上げてほしいなど。

今一部だけご紹介しました。このようなご意見、ご発言をいただいたということを補足させていただきたいと思います。昨年度はいろいろとご意見いただきありがとうございました。

それでは続いて、学校施設課からの説明になります。

(県教育委員会 学校施設課 木村課長)

改めて、今日この場にお招きいただきましてありがとうございます。

今後、下北統合校の新しい学校建築に関わる情報共有をできる場として、非常にありがたいと思っております。感謝申し上げます。これからいろいろ県も新体制となり新しい教育長も任命されると思います。今後新しい教育長に説明をしていきながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

では、担当から説明いたします。

(県教育委員会 学校施設課 宿野部主事)

私からは、下北地区統合校校舎建築基本計画の概要について説明いたします。A3横長の資料をご覧ください。

こちらは、令和4年度に策定した下北地区統合校校舎建築基本計画の概要をまとめたものです。

左上から1事業目的といたしまして、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画において、令和9年度に大湊高等学校とむつ工業高等学校の統合による下北地区統合校を開設し、その校舎については、むつ工業高等学校の校地内に新たに整備することとなっている。統合校の新校舎の建設にあたり、今後の設計、工事の実施に先立ち、敷地における建築条件の制約や建築基準法等による法的制限などを確認し、施設の配置、整備スケジュール、概算費用等について整理した、建築基本計画を策定するとしております。

続きまして、2計画条件の整理について、2-1立地条件統合校建築場所となるむつ工業高校における敷地面積、現況、位置、周辺環境をまとめています。右に国土地理院の地図を載せております。

つづきまして、2-2施設の概要について、まず新校舎の主な施設の概要といたしまして、施設名、構造、延床面積、階数、主な諸室等をまとめております。

新校舎の面積は、13,325㎡と想定しており、内訳といたしまして、普通教室棟2,400㎡程度、管理・特別教室棟5,900㎡程度、実習棟5,000㎡程度を計画しております。なお、各棟の延床面積は便所、廊下等の共用部分を含むことから、概ねの面積としています。

続きまして、むつ工業高校の主な施設の概要といたしまして、施設名、構造、延床面積、階数、完成年、対応をまとめております。表の右にある対応についてですが、第一体育館、体育館玄関棟、第二体育館は統合校で継続使用していくこととし、それ以外の施設は全て解

体することとしております。

続きまして、3整備スケジュールについてです。まず、今年度から令和6年度にかけて、設計業務を行います。

次に普通教室棟、管理・特別教室棟建築工事について、設計終了後に発注し、令和8年度にかけて建築します。続いて実習棟の建築工事に取り掛かり、令和9年度の開校を迎えることとなります。実習棟は令和9年度中に完成することとしており、統合校の生徒が1年生の間はむつ工業高校の既存実習施設を使用し完成次第、新実習棟を使用することとしておりますので、本格的な実習が始まる2年生までに間に合うスケジュールとなっております。その後令和10年度に、むつ工業高校の既存校舎の解体工事を行い令和11年度に運動場や外構などの屋外環境整備工事を行うこととしているものです。

続きまして、4概算費用について、いずれも税別で、統合校の建築工事で50億円程度、むつ工業高校既存校舎解体に4億円程度、屋外環境整備工事に2億円程度の合計56億円程度を見込んでおります。

続きまして、資料の右側となります、5配置計画図について、上に現況配置図、下に建築計画配置案を示しております。赤字の点線で示しているエリアが、新校舎の建築想定位置であり、④の体育館玄関等に渡り廊下で接続し、既存グラウンド野球場部分に建築する計画となっております。この配置により、青い矢印で示した施設利用者動線のとおり校門から校舎までのアプローチ空間を大きくとれるため、朝夕の送迎車が道路に溢れることがなくなり渋滞の緩和ができるものと考えており、さらには生徒が敷地内において安全に乗降できるようになります。

また、十分な数の駐車場、自転車置き場を整備することとしております。野球場とグラウンドについては、敷地の上部分に整備する予定としており、赤字の斜線を引いているところは敷地の高低差を解消するための造成工事を行う部分を示したものです。

以上が基本計画の内容となりますが、ただいま説明した内容は、今後の設計において多少の変更が生じる可能性があるものとなっております。

また、建物の外観や諸室の配置、レイアウトなどの詳細は今後の設計において検討していくこととしております。

以上で、県教育委員会による概要説明を終わります。

(高橋座長)

県教育委員会からご説明をいただいた、改革推進室の概要説明に関して質問がある方はいらっしゃいますか。

(堺委員)

昨年度まで行われていた地域の方々との意見交換について、先ほど口頭で説明をいただきましたが、この検討委員会でも重要な参考になると思うので、是非とも参考資料をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

ありがとうございます。先ほど(事務局が行った)年間計画の説明で、次回2回目も予定されているということですので、準備させていただきたいと思います。

(奥川委員)

私ども大湊高校では、県から説明会を1回、むつ工業高校と合わせて2回目の説明会を受けました。Q&Aや議事録について、かなりの期間示してもらえなかった、何を言ったか忘れてしまうくらいで。最近示されましたが、そのほとんどが、答えが空欄だったり、令和7年度の開設準備委員会につなぐというような内容で具体性がなかった。ましてや今回の基本計画の内容についても、説明を聞きたいということは数ヵ月前から学校を通じて申し出していたけれども全くそれが示されない。しびれを切らしていた状態。親切丁寧にきちんと住民の方には説明をしていきたいと、県知事も教育長も話していたが、現実的にはそれが全然展開されない。我々高校関係者としては、しびれを切らしていた状態です。過去のQ&Aや質問の内容について、今日は資料としてついていない。口で説明するだけではなく、一番重要なものについてはペーパーでほしい。そうすると、この会議も非常に効率的に進むことになると思います。同じことを何回も言うことはないと思いますし、資料提供と、迅速な対応をしていただきたい。

(高橋座長)

ご説明について疑問があれば確認をして、共通の土俵を作って議論に進みたいと思っておりますので、まず説明事項についてご質問があればお願いします。無ければ意見ということで先に進めたいと思っておりますが、いかかでしょうか。

(奥川委員)

この基本設計の図面の右下、野球場とグラウンドが兼ねられている。大湊高校の場合、非常に野球が盛んで、専用の野球場を持っている。これを見ると専用の野球場がない。どういう意味かわからないが、野球場とグラウンドと書いてある。グラウンドとは何のことか。陸上競技場ということか。

それと、もう一つは、この野球場とグラウンドというのは、例えば野球場であれば、レフトが100m、ライトが100m、センターがそれ以上と、ホームベースから後ろを入れれば120mくらいの長さが必要だが、図面を見るとおそらくそれが取れていない。その辺のところ基本計画ではどのように見ているのかということが聞きたい。

(県教育委員会 学校施設課 木村課長)

グラウンドとは陸上競技場のことでございます。図面の配置をご覧いただきたいのですが、現状ではむつ工業高校は陸上競技場と野球場を併設してございます。改めての配置案においても野球場とグラウンドは並置できるものと考えております。

(奥川委員)

歴史を持つ大湊高校なので、新設校とはいえ、その遺伝子が引き継がれるように地域は願っている。ですから、陸上競技場と野球場は別の施設にさせていただきたいと思います。県の教育委員会の会議の中で決定したということではないですよ。要望として聞いていただきたい。以上です。

(県教育委員会 学校施設課 木村課長)

せっかくの機会ですので、お答えいたします。

グラウンドと野球場の件ですが、大湊高校で一生懸命野球を頑張っていることは承知していますので、設計の段階で、仮に大湊高校の野球場を使いたい、使ったほうが教育上効果的であれば、それを踏まえて、今後設計の段階で検討してまいりたいと考えております。今はこういう配置の案、基本的な案を作ったと捉えていただければありがたいなと思っております。

(高橋座長)

よろしいでしょうか。

(奥川委員)

これ以上突っ込んでもあれなので。

(高橋座長)

何かあればまた後でお願いします。

それでは、ちょっと方針とずれましたが。改革推進室の説明に対する質問に戻って、いかがでしょうか。

(木村委員)

統合校の方向性というところにおいて、何度も目にして資料でございまして、実際の教育活動、統合校が目指す姿、教育活動の例とかが記載してありますが、令和7年度から具体的に示すということで間違いはないでしょうか。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

はい、教育課程の編成、それから教育内容については、令和7年度の開設準備委員会で議論して、協議して令和8年度の開設準備室につなげるとして、基本的なスケジュールについては、それで進めたいと考えていますが、先ほど施設課のほうからも話が出たのですが、新知事や新教育長が変わるということで、新教育長に説明をし、意向を確認して進め方やスケジュールについても確認して進めたいと思っております。まずは、公表しているスケジュールについては、このようなかたちで進める予定としておりました。

(木村委員)

ありがとうございます。

あと、もう1、2点、皆様が思っている下北地域の特性というのはいかのようにお考えなのか。

また、統合校における教育活動の例の一番下、高度な職業資格の取得等とありますが、高度な職業資格とはどういったものを示しているのか教えていただければと思います。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 外崎室長)

先ほどの話と重複しますが、統合校についてはゼロベースではなくて、大湊高校とむつ工業高校の学びを継続していくということがベースにあり、工業科と総合学科がベースにあって、まっさらから検討するのではなくて、それをベースにしていきましょうということです。

それから、今お尋ねなのは資格の話でよろしいでしょうか。基本的には、情報交換でもお話が出たりした部分もあります、今むつ工業高校とか大湊高校で取り組んでいる資格、いろいろと資格取得には要件がありますけれども、条件がないものもありますし、教育課程や授業等の延長上にある資格もあります。それから直接生徒の勉強と関わらないものや、生徒の勉強の延長上にある場合もありますが、補習等で先生が手助けしてくれるものと思っております。

そのような意味では、統合校になって勉強が始まって、生徒が取りたいと思う資格を統合校の先生が、助けてくれるものと考えております。

今、具体的には言えないということですが、よろしいでしょうか。

(木村委員)

この辺についても、スケジュールにある令和7年度くらいには見えてくるということでしょうか。

あとは、今年度はあと2回目、3回目の検討委員会が開催される予定となっておりますので、各校の現在取れる資格等をお知らせいただければと思います。むつ工業高校に関しては、私も同窓会長として把握はしておりますが、大湊高校でどのような資格が取れて、資格を取るためにどのようなことをしているのかを、皆さんで共有できればと思いますのでよろしくお願いいたします。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

むつ工業高校で取れている資格については、木村さんのほうでご存知ということで、こちらのほうでも第3種電気主任技術者の他に、先ほどおっしゃっていた高度な職業資格はどのようなものかということですが、今すでに取りっているものも高度なものとは思いますが、第1種電気工事士や2種工事士なども取っていたと思います。

大湊高校については、大湊高校の校長先生もいらっしゃいますが、こちらで把握している大湊高校で現在取得に取り組んでいる資格ということを、口頭で羅列してお話します。

日本漢字能力検定、英語技術検定、数学技能検定、日本商工会議所主催簿記検定、全国商

業高校協会ビジネス計算実務検定、商業計算検定、他にいくつかありますが、情報処理や介護職員初任者研修などと伺っております。もし、千葉校長先生、何か補足がありましたら、大丈夫でしょうか。(千葉委員：「現在のところはその通りです」と発言あり)
このような資格取得を取り組んでいるということです。

(高橋座長)

よろしいでしょうか。
他にございますか。

(阿部委員)

阿部と申します。

質問2点の前に、お礼を申し上げたいのですが、本当に地域校の存続、充実を含めて地域をしっかりと考えた計画を立案していただいたことを感謝しております。そして、合わせて、市が主催する会に多数出席いただいて、ご説明いただいていることも非常にうれしく思います。本当にありがとうございます。

質問は2つなのですが、いただいた資料に卒業生の人数が載っています。令和6年これは今の中学3年生であって、右側の令和9年は今の小学6年生になります。当地区の現状として、5年ごとに100人ずつ子供が減っていく状況にあると認識しています。私どもが知りうる範囲で申し上げますと、小6から5年経った小学1年生が今度は412名になります。さらにその5年先が308名、その翌年度は279名となります。したがって、このプランの後の10年間で200人減って、現状600人弱の卒業生が300人を明らかに割る状況になります。こちらどもの資料は、前回確かめさせていただいたところ今の人数よりも若干減っているという傾向にあると承知しておりますので、そうなる私が申し上げた数字よりもさらに少ない卒業生ということになります。

私どもの会議は、令和9年度の入学までの新設統合校の有り様を検討する会議ということは重々承知しておりますけれども、申し上げたとおり今の600人弱がこのプランのあと10年後に300人弱になってしまう。そうした状況を見据えたうえで、新しい校舎の建築も進むわけですので、考えていかなければ当然ならないと理解しております。私が申し上げた数字等に関して誤りがあればご指摘いただきたいと思いますし、質問は、申し上げたとおり、この5年間だけではなくて、地区の子供たちの可能性を開いて、夢を実現するためにはさらにその5年、10年後の有り様も念頭において検討していかなければならないと考えておりますので、そうした方向性に関して、お考えをお持ちであればお伺いをしたいと思います。

そして、質問の2点目は、この会議で話されたことの現実化についてです。もちろん県教委自体の公的な会議ではありませんし、最終的には先ほどご説明いただいたように県の教育委員会会議で決められることでしょうし、新教育長等のご意向等も反映されることかと思えます。しかしながら、私どもがこうして地域の代表の方々にもお集まりいただいて話をすることの具体化が、次の準備室や準備委員会にほとんど反映されないとすれば、それは決して妥当ではない、不本意であると考えておりますので、具体的にこの会議で出た意見等に関し

て検討ないしは回答等に関して、今現在お持ちのプランがあれば、聞いたことは必ず検討して次回お答えしますということ等があれば大変うれしいと思います。

長くなったので、まとめたいと思います。

質問の一つ目は、5年ごとに100人減っていくこの地域にあって、そのゴールに向かってしっかり我々考えていかなければならないと思います。その方向性について、お尋ねしたいと思います。

二点目は、この会議で質問したこと、意見を申し述べさせていただいたことは、どのようなかたちで準備室、準備委員会に反映させるシステムになっているのか。

以上よろしく申し上げます。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

まず、令和9年度までの生徒数の見込み、阿部教育長の試算については、こちらのほうでも産まれた子供の数はわかっているので、今後令和10年以降の子供の数の把握はしております。

そして、この後についても、先月立ち上げたのですが将来の高校のあり方について、高校教育のあり方について検討する高等学校魅力づくり検討会議というものを立ち上げて、その中で子供の数や、県立高校をいい学校にしていきたいということで、どんな高校のあり方にするかということを検討していきますので、県全体で考えていきたいと思っております。まず、将来の話については、そういうかたちで今進めております。

それから2点目について、この会議をどのようにつなげるのかということについては、先ほど奥川さんからお話があったとおり、話をしてもそれがどのように残っているのか、ということですが、去年1年間いろいろと情報交換させていただいたものや意見については、こちらで資料化して、対応案を答えることができるものもあれば、やはり今答えることができないものもあります。ですので、今答えられるものは、こういう状況ですというものは昨年度お話をさせていただいたつもりではありましたが、どんどん意見をいただいたものは蓄積していき、令和7年度の開設準備委員会につなげるかたちで進めていきたいと思っております。先ほど堺さんからお話いただいたとおり、どんな意見が出たかということについて、次回資料をお渡ししたいと思っております。話したことがどこに行ったのかとは、ならないようにしたいと思っております。

(高橋座長)

阿部委員、よろしいでしょうか。

(阿部委員)

大変ありがとうございました。

先ほど、ご説明いただいた改革の方針等については、ここにいるもの全てが思いを一にしているものと思います。

そして我々が集まっている目的は、その思いをどうかたちにして、具体的に子供たちの成

長に結びつけていくのかということかと思しますので、是非具体的な検討、ご回答を期待申し上げます。お礼としたいと思います。

よくわかりました。ありがとうございます。

(高橋座長)

次は(2)にいきたいと思えます。

(角本部長)

ただいま進行しているところは、教育委員会からご説明いただきました統合校の開設に向けた概要について、という部分でありまして、こちらについてご意見がないのであれば、改めて基本計画についての質問を受けるということで、高橋先生のほうから(2)というご発言があったものですので、よろしくお願ひします。

(高橋座長)

県教委のほうで補足はありますか。

(奥川委員)

事務局には確認しておりましたが、今日は県の人もたくさん来られているので、わかるものは答えていただくということで結構ですが、どちらかというところ、どういう課題があるのか、どういうものについて議論を集約していくのかということで、今日は質問して答えるという場ではなくて、その課題を抽出してこれからの論点を整理するというところ、私はあえて答えを求めていなかったのですが、そのような考え方でよろしいでしょうか。

(高橋座長)

はい。結構です。

次第の議事(2)で、意見が無いのであれば、次にご意見というところで、自由にご発言いただきたいと思えます。

(3) 今後の検討事項について各委員からの発言

(奥川委員)

今日私は大湊高校後援会の理事長ということで、後援会がらみのお話をさせていただきたいと思えます。

基本的には学校が無くなれば後援会が無くなるという大きいスケジュールがあるのですが、後援会が学校の土地に建てて、管理している「生徒会館」という施設があり、合宿ですとか、生徒の食堂、小さな会議室で構成されております。県から土地を借りて建てたものなので、学校が無くなれば、契約では特別な理由がない限り原状復帰、更地にして県へ返還することと定められています。実際取り壊しの費用は、約1,000万円程度と言われていま

す。原状復帰するには大変経費がかかるので、これまで、取り壊しの免除を求めて学校を通じて県教委のほうに文書での回答を求めてきましたが、県教委では文書での回答は出来ないという結論です。なぜ出来ないかは、私はよくわからなかったのですが、この取り壊しの費用を後援会が負担することになれば、今後約6年間大湊高校は続くわけですけれども、後援会の運営に非常に支障が出てくるということもあります。再三に渡り学校側を通じて原状復帰の免除を求めてきましたところ、去る5月の理事会において、校長権限で原状復帰を回避したい旨の説明がありました。私どもは法律に基づいた財団法人でありますので、こういう取り決めや約束事は文書に残すことが当然の行為であり義務であると考えています。このままでいいのか、理事長として非常に不安な状態にあります。今すぐ答えてほしいというわけではありませんが、できる限り文書で回答していただきたいというのがひとつです。

2つの高校の後援会は、学校が廃止になるわけですから、統合とはいえど今ある学校は廃止になるわけですから、それと合わせて、後援会も当然解散となります。新校の開校に合わせて、新たに後援会を立ち上げるというのが基本だと思っております。後援会の合併や、片方の後援会が解散しないでそのまま生き残って、新たな高校の後援会を兼ねる、守備範囲に置くという意見もあるようですが、理事の再編成や内部の規則の改正など、ましてや後援会費の調整など非常に難しいということもあるので、私が先にお話したとおり新校においては新たな後援会を立ち上げるべきだと思っております。新校に後援会が必要であるということは、県教委も下北地域の皆様も同じ考えだと思っておりますので、早い段階でこの協議をスタートさせる必要があると思っております。

このことに県教委が行った説明会の中では、非常に乱暴な言い方で後援会の事は後援会でやってくれとピリオドを打たれた経緯もございますので、このことについても慎重に協議する必要があると思っております。

3つ目は、新校の学科の編成については、説明会や懇談会の中ですでに県教委の教育委員に、教育委員会会議において決定済みと。総合学科が3クラス、専門系の学科が2クラスとしています。今日の説明によると、開設準備委員会で、それを基本として若干検討の余地があるというような話を今聞きましたけれども、この地域は海上自衛隊の総監部がある、原子力・エネルギーの集約される半島であり、海に囲まれるという大きな特性のある地域です。その中で、果たして今のままの総合学科3、技術系が2でいいのかどうか、また設立母体もこういう地域であれば県立というよりも国立というような設立母体も考えられるのではないかと。例えば海上自衛隊の場合であれば横須賀のほうに少年自衛官という高等学校があるようです。自衛隊員も不足していると聞いていますので、是非この辺のところも議論していただきたいと思えます。

もう一つは、昨年度宮下前市長がリーダーとなって、2年前に設立される開設準備委員会では遅すぎる、今すぐ県が主体で、むつ市主催で開催したこのような統合校の検討委員会を作っていただきたいというふうな陳情をしました。それにもかかわらず、県はNoという答えだったわけですけれども、教育にかなりの重きを置いた公約を載せている宮下前市長が県知事に就任した今、この辺について再検討する必要があるのではないかという思いです。これは課題としてお話ししますので、どなたも答える必要はありませんけれども。これが4点目

です。

もう一つは愚痴になるのですが、表現の問題となりますが、今日の会議の要綱もそうですし、ありとあらゆる表現がそうになっているのですが、下北地域統合校設置要綱の中で、大湊高校、むつ工業高校の統合によるという言葉が使われているのですが、統合というのは今ある生徒たちも同じ学校に一つの学校になるという感覚だと思います。正確にいうとむつ工業高校と大湊高校が廃止により令和9年度に新設される下北地区の新設校という表現が本当は正確なのではないかと思っていました。結果としてこの設置要綱もそうであるが、下北地区統合校検討委員会ではなく下北地区新設校の検討委員会という表現が適切ではないかと。私の勝手な思いなので聞き流しても結構です。以上課題として4、5点お話をさせていただきました。

答えがある場合は答えていただいて結構ですので、よろしく願いいたします。

(高橋座長)

答えはいろいろなものもあるとの話ですが、県教委のほうで今のご発言に関連してご発言があればどうぞ。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 外崎室長)

いろいろありがとうございました。

今、奥川さんからお話がありました、今まで行った情報交換の中でもお話されていたものもあります。

先ほど今日資料が無いのかということですので、次回にまとめて資料を出したいと思います。今までの情報交換の経過や、今日の結果も踏まえて資料を出したいと思います。

実は今日その資料を準備して来なかった理由が一つあります。私たちが今日資料を配りますと、結果がそこに書かれております。今の議論や意見を活発にいただく意味でも、今日資料を出すのを止めたということがあります。ですから今日の意見を踏まえまして、次回提供したいと思います。それと、後援会の話もその資料の中にあります。

それから、今の新知事が陳情に来られました検討委員会を作るといいのではないかとということで、当時の教育長が回答させていただいたということがあります。結果、県主導で作らなかったということがあります。ただ、地域の意見を聞きましょうということで、今日この場にお邪魔しているということがあります。

それから統合によりということで、両校廃止して新設校ではないかとお話をいただきました。統合によりという意味合いは、奥川さんがおっしゃるとおりではありますが、精神として、両校の学びを引き継ぎたいと。現在やっている学びを、勉強を継続したいと。もちろんそのままではありません。どういった学びがいいのか、様々検討して教育委員会会議で決定して、現在準備段階ということがまずあります。ただし、校名の話もありましたけれども、両校がどちらかに吸収されるのではないという意味も含めて、どちらかの学校名を残すのではなく、新たな学校名を作りましょうというのが方針として出されているところです。

以上です。

(奥川委員)

一番初めに話をした、生徒会館の原状復帰については、文書でいただきたいというのが第一なのですが、それについては今日話を出来るところまで結構ですのでお伺いしたいと思います。

(県教育委員会 学校施設課 木村課長)

生徒会館の契約については、契約者が実は大湊高校と後援会の契約になっておりますので、先ほどお話があった時に、大湊高校から解体しなくてもいいという話があったということだったと聞きましたので、そのところを学校から文書でいただければいいという話でよろしかったでしょうか。

(奥川委員)

要は、その決定ができる権限のある方からの文書をいただきたいということです。

(県教育委員会 学校施設課 木村課長)

はい、わかりました。

後で大湊高校と相談してかたちになるようにしたいと思っております。それでよろしいでしょうか。(奥川委員：「はい」と発言あり)よろしく申し上げます。

(高橋座長)

はい、それでは他にございますか。時間が詰まってきましたので、まだ一度もご発言のない方は是非この際ですので、ご発言いただきたいと思えます。地域の学校の将来のことですので是非お願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

(越後林委員)

大畑町商工会の越後林です。

私も、だいぶ前に大畑高校が無くなった経験を持っています。その時の感想と申しますか、地域にとって学校が無くなることは、非常に寂しいということだけではなくて、街中のにぎわいが無くなるというひとつのマイナス面があって、当然それに伴う経済活動も非常に寂しくなる、停滞するということもあり、これに対し地域で真剣に考えていかなければならないと思っています。

私は教育関係については疎いので、専門的なことはわかりませんので勉強しながら私が感じるころがあれば発言していきたいと思えます。

よろしく申し上げます。

(千葉委員)

大湊高校の千葉です。

今後の検討事項について、本校は来ていただいた方はわかると思えますが、とても景色の

いい場所にあります。敷地も広いです。本委員会で、もし可能であれば校舎がむつ工業高校と統合された後の校舎の利活用について、地域でこういうことで活用ができるなどを検討していただければいいと思っておりました。

(山田委員)

むつ工業高校の山田です。どうぞよろしく申し上げます。

4月に赴任してまいりました。30年前にもむつで教員をしておりました。その当時から地区のPTAの皆様とか、地域の方々の教育に対する情熱、様々なところに助けられておりました。

今、本校は60周年の記念事業になります。30年後に機会を得て、むつ工業高校の勤務ということで、非常にうれしく思っております。現在も30年前に増して、地域の方々やご父兄の方々が教育に対する情熱、学校に対する思い入れを強く感じております。現段階で様々な立場の方々が学校の教育に対して、情熱を持って取り組んでいるところだと察しております。その方々がそれぞれの立ち位置において、子どもたちの将来、夢を叶えるという、下北地域の子供たちの将来が良い教育環境であるということに向かって進んでいるということ、つくづく今日の会議に参加して感じました。

今後また、様々なご意見をいただきながら、工業高校がやれる範囲でどのように将来に新しい像を作っていくかということを検討していきたいと思っておりますので、どうぞ今後よろしく願いいたします。

(岩淵委員)

むつ市連合PTAの岩淵です。

大きく2点、質問といいますか、今後の検討事項として述べさせていただきたいと思っております。

1点目は、県内でも県外でもこれまで統合をした経験があるような学校があるかということ、ある場合、統合に向けた準備であるとか、また統合した後の問題点が過去の事例でどのような事があったのかということをお伺いしたいです。当然いい点や悪い点があるかと思いますが、そのような部分を広く教えていただければ、この委員会のいい発展につながるのではないかと思います。

2点目は、中学校3年生は高校説明会でいろいろな高校から説明を受けているようですが、今の中学3年生が来年大湊高校やむつ工業高校に入学した場合、令和8年度には卒業してしまう、最後の学校の卒業生になるかと思いますが、新しく始まる学校と、これまでむつ工業高校でやっていたカリキュラムなどについて、切り替わるタイミングが子供たちにとって差が無いような方法を考えていただきたい。フォローをどうしていくのかということ、委員会で検討してほしいということ、PTAの立場からお伝えして終わりたいと思っております。

以上です。

(堺委員)

大間中学校PTAの堺です。

むつ工業高校と大湊高校の統合ということで、正直、大間、風間浦、佐井にとって、よそ事ではない話だと思っています。如何せん、大間高校はありますが定数が少なくなってきて今後どうなっていくかということも、町ぐるみ、北通りぐるみで検討はしていますが、高校に行く選択肢は子供にあると思っているので、我々保護者としても、大湊高校とむつ工業高校が魅力ある学校であれば子供たちも行きたいということも出てくるかと思うので、大間町だけではなく北通りとも協議をして、どのように伝えていくかということをお我々も検討していかなければならないと思いました。

(畑中委員)

東通中学校PTA会長の畑中です。

今日は初めて第1回目の検討委員会ということですが、2年間で第6回まで検討委員会があるようですので、親切にも2回目は1回目の委員会で発言のあった意見への対応とありますので、回を重ねるごとに皆様で意見を出し合って、よい学校づくりの方向に持っていかれたらと思っておりました。

よろしくをお願いします。

(古川委員)

風間浦中学校PTA会長の古川です。

今日は参加させていただきありがとうございました。

自分がこのような会に参加させていただくとは思っていなかったもので、勉強不足でしたので、先ほど次回に資料と言っていましたが、その前に資料をもらって勉強して次に参加したいと思しますので、何とかよろしくお願いします。

今日はありがとうございました。

(伊藤委員)

佐井中学校PTA会長の伊藤です。

意見をどうぞということでしたので、先ほどは統合校の概要とかいろいろ説明をもらいましたが、佐井の子供たちは新しい学校が出来たとしても学校に通うとなれば1時間半かかりますので、そういう子供たちがつらい思いをするのであれば、下宿という方法もありますが、今実際むつ市に下宿する場所がほぼないような状態です。大湊高校は芦崎食堂で野球部もいるため受け入れしていますが、田名部高校、むつ工業高校に行くには選択肢が無くて、ここ2年佐井の子供たちはそこで選べなくて行っていないという現状です。県の方もいるので、佐井の子供たち、北通りの子供たちがむつ市まで通う負担について、寮を作るなり下宿を考えてもらえたら、新しい学校に子供たちが行けるのではないかと、要望としてお願いいたします。

(種澤委員)

大湊高校PTA会長の種澤です。

今年4月から会長職ということで、前年度の会長からも統合に関してはお話を聞いておりましたが、口頭での引き継ぎだったので、先ほども言うておりましたが、議事録等を準備していただきたい。急に来ても全然わからない内容ばかりなので、やはり事前に資料提供いただければ予習しながら会議に参加できると思いますので、検討のほうよろしく願いいたします。

(濱田委員)

むつ工業高校PTA会長の濱田です。

本日は検討委員会に参加させていただいて、やはり先ほども何回も出ていましたが、検討や意見をくださいという割には資料が足りないのではないかと正直感じました。

私も今年度からPTA会長を務めさせていただいていますが、前年度までのQ&A等もそうですし、岩渕会長もおっしゃったとおり過去の事例、県内でもこのような会議が何回か行われているかと思っておりますので、そこで出た事項を皆さんで共有していかたちに持っていきたいと思っております。

あとは、統合ということで、もっとむつ下北の地域の特性を県の方には理解していただいて、それに向けて頑張っていたいただきたいと思います。

私は六ヶ所村で仕事をしていますが、下北地区はなかなか人が来なくなっておまして、統合となったとしても、下北地区の子供がどんどん減っていく現実がありますので、統合というかたちでこれから明るい未来が子供たちに待っているということをもっと広げていけるように、県内であったり全国であったりとか子供たちが学校に行きたいと思うような高校を目指して考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いします。

(佐々木委員)

大湊高校同窓会の佐々木です。

この統合校の検討委員会は、子供たち、生徒の事を第一に考えなければならないと思っております。

ただ、同窓会という立場から、大湊高校は閉校になる時には80周年になります。むつ工業高校も60周年ということで、両校長い歴史と伝統があると思います。新設された学校に同窓会として同窓生としてどんどん行って協力できるかたちを取ってもらいたいと思っております。今後の会議でその辺もお話聞きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(吉田委員)

むつ工業高等学校後援会理事長の吉田です。

皆さんがおっしゃったとおりでございます。

後援会の立場からお話すれば、奥川さんが言うこともよくわかりますし、不安な部分もた

くさんあります。私自身も何回か統合の関係の会議に出ていて、同じことを何回も話している。皆さんが言っているとおり、かたちになったものがなかなか出てこない。毎回同じ話ばかりしている。

県の方々も大変だとは思いますが、是非地元の子供たちがいろんな学び、選択できる状況を作って下北の子供たちをレベルアップさせることができるような高校を作ってほしい。次の会議に期待したいと思います。

(奥川委員)

短く言います。

阿部教育長も話していましたが、今日は課題でしょうから、あと10年後の子供たちの数を考えれば、新校設立というのは本当にこれでいいのかと。私はおととしの県の説明から、全部話を聞いてきました。吉田さんが言っているのはよくわかります。下北の高校というのは、今の統合というのは無駄になるのではないかと一つの高校にしたほうがいいのかという思いもしています。

以上です。

(高橋委員)

最後に大きな提言がありまして、私もお話したいところですが、感想だけ述べさせていただきます。

私は、総合学科高校については、大変難しい学校教育制度で、文部科学省が制度化を法制化してから数年たつわけですが、全国的に見て増えているわけではありません。

先週、こういう会議があるものですから関心をもって長野県に行って、中野市に新しい総合学科高校が立ち上がっているの、そこを県教委にお尋ねしたら県教委は大変綿密な資料を整理して途中経過などを改めて勉強させていただきました。総合学科高校は非常に難しい制度だと私は思っております。工業と組み合わせた例として、しばしばこの論議の途中経過の中で、県教委も静岡県の伊豆総合高校の話が出たかと思いますが、この高校に長くおられる先生に直接聞くところによりますと、意図とは違った方向にやっぱり動かざるを得ないということで、大変忸怩たる思いがあると率直な話をしておられました。

今踏み出したわけですから、いろんなことを一つ一つ潰しながらこの会を通じて何としてもいい学校になるように、今後も議論を深めていければいいと思っております。

次回も是非一緒に、いい高校を目指して議論を進めていければと思います。

ご協力ありがとうございました。

7. 閉会